

若年の投票率向上に対する手段としての NIE —政治的社會化の観点から—

Web 用要旨 (サマリー) (1 ページ/2 ページ)

18W1403011E 柳澤美南

1. プロジェクト名

若年の投票率向上に対する手段としての NIE —政治的社會化の観点から—

2. 所属学科・学年

総合政策学部 政策科学科 4年

3. 氏名

柳澤 美南 (ヤナギサワ ミナミ)

4. 研究目的

日本学術会議(2020)は「日本の民主主義を空洞化させないためには、政治的リテラシーの涵養のみならず投票率の向上は大きな課題の一つである」と指摘している。少子高齢化が進む日本で、民主主義を持続させるには若年の投票行動は重要である。この背景の中で 18 歳選挙権が行使され、主権者教育が改めて注目された。しかし、「政治的中立性」の問題により、教育現場に負担がかかっていることが去年の研究より明らかになった。これに対し「政治的中立性」をより深く考察し、「良識ある公民として必要な政治的教養」を育てるための教育を導く。

5. 結論

教育における政治的中立性とは何かを先行研究から考察し、完全な政治的中立は不可能であることを確認した。一方でできる限り中立を担保する為に総務省・文部科学省が示した「①他の考え方や見方を紹介する。②異なる見解を示した複数の資料を使用する。③教員の個人的な主義主張を避けて中立かつ公正な立場で指導する。」が有効とした。上記3点を踏まえ、「良識ある公民として必要な政治的教養」させるための副教材として新聞を扱う NIE に着目し、その実態を述べた。実態の中で、新聞が故の問題点に触れ、その問題は複数紙扱うことで解決できると考えた。一方で、具体的に何紙を用いれば中立を担保できるのかについて、更なる知見を深めるために実態調査を行った。実態調査の結果、NIE に力を入れているとされる NIE 実践指定校においても、全国紙を複用いることが困難であることが判明した。ただでさえ負担が大きい教育現場において、NIE を推進するためにはそれなりの効果が必要であると考えた。そこで NIE を受けている高校生と受けていない高校生を対象としてアンケート調査を行った。結果として、「NIE が投票行動の要因である初期社会化に対しての効果が見込めない可能性があるが、新聞が持つ『政治の時事的事象』を扱うことによって教科書では賄いきれない政治的教養を身につける効果は期待できる」とした。

6. 活動内容

若年の投票率向上に対する手段としてのNIE —政治的社会化の観点から—

Web用要旨（サマリー） （2ページ/2ページ）

18W1403011E 柳澤美南

実態調査（ヒアリング調査）

- ・和歌山大学教育学部附属小学校
- ・和歌山市立和歌山高等学校
- ・和歌山市立教育研究所専門教育監 NIEアドバイザー¹ 須佐 宏氏
等

実証調査（アンケート調査）

- ・和歌山市立和歌山高等学校

¹ NIE ホームページによると、新聞協会が2004年4月から、各地のNIE推進協議会からの推薦に基づき、NIEの実践経験豊かな現役の教師（地域の事情に応じ教員経験者、生涯学習の関係者も含む）をNIEアドバイザーに認定している。全国で約300人のNIEアドバイザーが活動しており、新聞活用に関するさまざまな知見を持ち、NIE初心者の教師らへの助言も可能である。